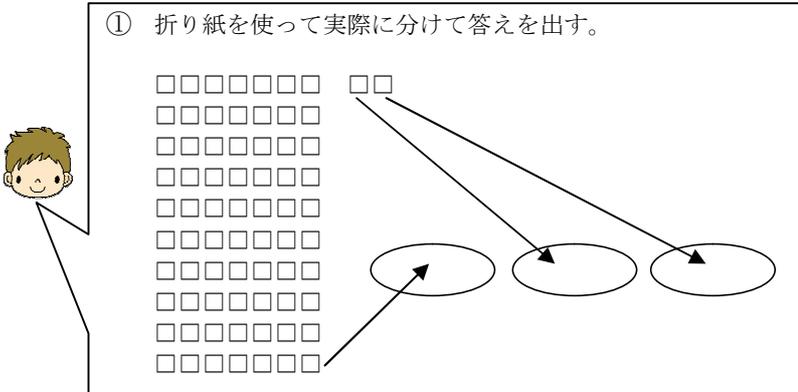
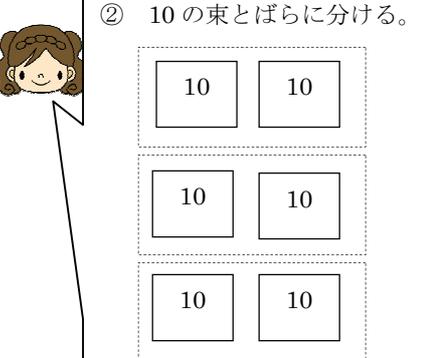
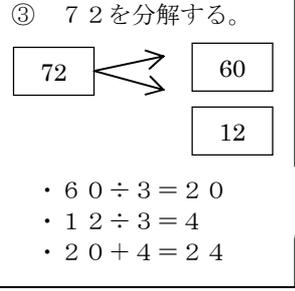
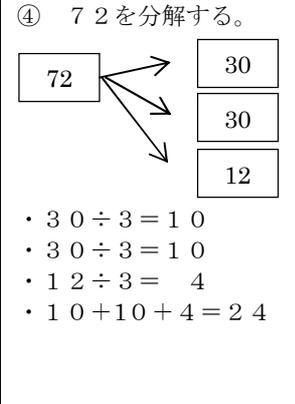


4年	整数のわり算	除法 2位数÷1位数(余りなし)の計算の仕方と筆算
【ねらい】 2位数÷1位数(余りなし)の計算の仕方を、既習の除法計算を基に、具体物や式を用いて考え説明することができる。		

課題	72枚のおりが紙があります。3人に同じ数ずつ分けると一人分は何枚になるでしょう。 (式) $72 \div 3$	一人分はだいたいどれぐらいになるかな？ 72÷3の計算の仕方を考えよう。	
----	-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

既習事項	① 実際の折り紙72枚を分けて考える。 (具体物、絵で表す)	② 10の束とばらの折り紙を使って考える。 (具体物、10の束の模型)	③ 被除数をわり切れる簡単な数に分解する。 (72を60と12に分ける)	④ 被乗数をわり切れる簡単な数に分解する。 (72を30が2つと12に分ける)
------	-----------------------------------	----------------------------------------	-----------------------------------------	--------------------------------------------

自力解決	<p>① 折り紙を使って実際に分けて答えを出す。</p> 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人分だいたいいくらかになるか「見当」をつけさせてから本時の学習に入る。 ● ①の具体物を操作させる場合は、1枚ずつからはじめ「もっと簡単に分けることはできないか」を考えさせていくことで10の束につなげていく。 ● ②の7÷3の余り1が、「10の束が1つ」であることをおさえてから、次の計算に入っていく。 ● ②においては、10の束を十の位、ばらを一の位ととらえさせていくことで、③と④の考え方に結び付けていく。 ● ③④では、前時の学習を活用させ、72を分解するときに割り切れる数に分解していくように支援していく。特に、「50」と「22」など児童が、着目しやすいが分解した場合、計算が困難になってしまう場合も予想されるので取り上げ方に注意する。 ● 実際に10の束を操作させながら説明させ、10の束の考えを全体へと広めていく。
	<p>② 10の束とばらに分ける。</p>  <p>③ 72を分解する。</p>  <p> $60 \div 3 = 20$ $12 \div 3 = 4$ $20 + 4 = 24$ </p> <p>④ 72を分解する。</p>  <p> $30 \div 3 = 10$ $30 \div 3 = 10$ $12 \div 3 = 4$ $10 + 10 + 4 = 24$ </p> <p>10の束を3でわる $7 \div 3 = 2 \dots 1$ あまりの1束とばら2枚を合わせて12を3でわる $12 \div 3 = 4$ $20 + 4 = 24$ 答え 24枚</p>	
集団思考	<p>1 具体物や式、図などを利用して自分の考えを発表する。</p> <p>① 実際に画用紙を分けて考えました。1枚ずつ分けていましたが、配る数を10枚ずつに増やしていくと早く分けることができました。</p> 	



② 10の束とばらに分けて考えると、簡単なわり算で計算することができました。



③ 72という数を分けてみました。60と12に分けたら今までに習ったわり算やかけ算九九で答えを出すことができました。



④ 72をわりきれぬ数に分けました。30と30と12に分けたら簡単に計算できたよ。

同じような考え方をしている友達是谁かな？



2 それぞれの考えの共通点について話し合う。



①の実際に分ける方法も、10枚ずつにすると簡単だっていたから10の束ということで②と似ているね。



③と④は似ているよ。④の30を2つということは60のことだよ。だから③の考え方と同じだよ。

②と③も同じ考え方ではないかな。②は十の束にしたし、③は10の位から考えている。



②の10の束で考えるということは、「十の位」から考えることと同じなんだ。

②と③の考え方を使得、わり算の筆算にまとめてみよう。わり算の筆算で使得きた「たてる」「かける」「ひく」「おろす」で、新しい筆算の仕方をまとめてみましょう。



3 わり算の筆算の方法をまとめる。



$$\begin{array}{r} 4 \\ 20 \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{r} 4 \\ 20 \end{array}} \right\} 20+4$$

$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 72} \\ \underline{60} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array} \quad \begin{array}{l} 20 \times 3 \\ 4 \times 3 \end{array}$$



商を一つにまとめて

$$\begin{array}{r} 24 \\ 3 \overline{) 72} \\ \underline{60} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array} \quad \begin{array}{l} 20 \times 3 \\ 4 \times 3 \end{array}$$

- ・10の位の7を3でわり、商2をたてる。
- ・つぎに3と2をかける。
- ・7から6をひく。
- ・一の位の2をおろし、12を3でわり、商4を1の位にたてる。3と4をかける。12から12をひく。



72÷3のような計算も、十の位から計算していくと簡単に解くことができるんだね。

- 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)
- 本時のまとめをする。
 - ・位ごとに分けて計算すると、簡単なわり算で答えを出すことができる。
 - ・わり算の筆算は、十の位から計算する。

● 束の考え方と被除数を分解した考え方の共通点と筆算の仕方を結び付けていく。

● 10の束から考えるていることから「十の位」へと目を向けさせていく。

● 形式的に筆算の仕方を覚えさせるのではなく、自力解決で得られた考え方の②と③をつなげていくことでわり算の筆算を作り上げていく。

● 10の位に目を向けさせるため適用問題を行うときは一の位をかくして計算させるなど工夫する。

